国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学付属小学校におけるいじめ重大事態に関する調査報告書およびその概要版に対する所見

本件の被害児童の両親である私たちに調査報告書とその概要版が開示されたのは、同報告書が完成したとされる令和6年3月19日の翌日、3月20日のことでした。

その場で概要版の内容が読みあげられましたが、その中の、いじめと認定できる事例が列挙されているページに、息子が最も苦痛を受けた二つのいじめが、一つは具体性のない形で書かれ、もう一つは記載そのものがなく、私たちにとっては到底受け入れられない内容であることを、同席されていた調査委員会委員である副学長に強く訴えました。しかし、すでに調査が完了していることを理由に、追記することも訂正することも拒否され、所見として翌週27日までに提出するよう求められました。そのようにして書くに至ったものがこの所見です。

概要版（2ページ目）への追記を求めた二つのいじめとは、

・息子が大事にしていたお守りをバラバラに解体してトイレに捨てた行為

・「〇〇（息子）をクラスで要らないと思うやつ」とクラス全員に挙手させた行為と、居合わせた担任が真剣に関与しなかったこと

これら2点については、息子を絶望させた最も陰湿な出来事として、聞き取り調査でも詳細に伝えたものでした。その内容は調査報告書本編では記載されており、調査委員会がいじめと認めている事例であるにもかかわらず、メディアへの公表に用いられる概要版への記載はなぜ頑なに拒むのか。いじめの全容を薄めて見せたいという意図すら感じられてならず、残念でなりません。

また、調査報告書本編においても、母親の名前の漢字が間違っていることに加え、以下の内容に不備があり、訂正を求めました。

調査報告書ｐ１４（３）
「4年生のこと」というタイトルの作文の授業で、息子が何も書くことができなかったと記載されています。私たちが問題にしていたのは、この作文について通知表の評価が「―（評価なし）」になっていたことです。息子がつらい思

い出しかない４年生の出来事について何も書けないと担任の教諭に相談したのなら、他の課題を与えるなり、別の対応があったはずなのに、書けないまま放置し、挙句に通知表で評価ゼロというやり方はどうなのかという主旨を伝えたつもりでしたが、調査報告書では「作文を書かなかった」ことにしか触れられておらず、主旨がまったく伝わらないものになっています。

調査報告書ｐ１４（５）

息子が水泳の授業でグループから排除されたことについてのくだりで、プール参観後に息子が担任の教諭に仲間外れのことを訴えたとき、「気のせいでしょ」と言われたくだりが抜け落ちています。このあと母親からの抗議を受けた担任は児童らに聞き取りを行い、故意に仲間外れにしたことが判明しましたが、母親が求めるまでその報告を行いませんでした。しかし調査報告書では、息子がプールで仲間外れにされたところまでしか書かれておらず、担任と学校の対応に親子共々絶望した主旨がまったく伝わる内容ではありません。

上記の不備について訴えたところ、母親の名前の訂正はするが、２つのいじめの内容については訂正しないので、すべて所見に（A4 用紙一枚にまとめて）書くようにとの回答が届きました。理由を尋ねたところ、「確定された調査報告書である」から訂正できないとのことでした。

私たちが求めていたものは、単に「重大ないじめがあった」という認定ではなく、どういういじめがあったのか、息子がどういう仕打ちを受け、何に苦しんだのかを明らかにすることでした。起こった事実をそのまま伝えてほしいということだけです。多方面への聞き取りにより多くのことを明らかにしてくださった調査委員会ではありますが、最後は、完成した調査報告書と概要版を一方的に読みあげ、こちらの要望は一切受け付けずに幕引きを図るというのでは、一体誰のための調査であったのかと、首をかしげざるを得ません。

以上

被害児童 父 [redacted]

2024 年 3 月 27 日